

第2学年国語科学習指導案

単元名 「主人公を替えてリライトし、書いた作品を読み合おう」
～想像豊かに読み、表現を工夫して書く～（「読むこと」と「書くこと」の関連指導）

教材 1 「盆土産」（光村図書「国語2」）

1 単元について

佐賀県の中学2年生の実態として、平成22年佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、「読むこと」領域の「目的に応じて必要な情報を読み取り、自分のものの見方や考え方に生かすこと」に課題があることが分かっている。

本単元には、この課題の解決を目指して、小説の主人公を替えてリライトする言語活動を取り入れた。リライトは「原文の読書行為を踏まえて、ある執筆目的のために、創造的に原文を書き換えること¹⁾」である。この言語活動を通して、目的に応じて必要な情報を読み取る力や、読み取った情報を自分のものの見方や考え方に生かす力を身に付けさせたい。

本単元で生徒に取り組みさせるリライトは、小説の主人公を替えるリライトである。リライトの条件として、「主人公にした人物の心情を書く」「主人公にした人物の視点から出来事を書く」「表現の仕方をまねる」の3つを提示した。この条件の提示により、生徒は、リライトするために、いつ、どこで、だれが、どうした等の5W1Hの観点による基本的な情報の読み取りをはじめ、登場人物の心情描写や表現の工夫の読み取りなどに取り組むことになる。この過程で、目的に応じて必要な情報を読み取る力を身に付けさせる。また、小説に描かれた出来事を、主人公にした人物の視点から捉えなおして、表現を手掛かりに想像をふくらませて書く活動に取り組ませる過程で、読み取った情報を自分のものの見方や考え方に生かす力を身に付けさせる。作品を書き上げた後は、自分の作品についてなぜそのような想像をしたのか、なぜそのような表現の仕方をしたのか、根拠を明らかにして解説させ、書き上げた作品とともに交流させる。この過程で、文章の表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめる力と描写や表記などの表現を工夫して書く力を身に付けさせたい。

リライトする教材には小説「盆土産」（三浦哲郎 光村図書「国語2」）を用いる。この小説には、東北地方に住む小学3年生の少年と中学生の姉、祖母、東京に出稼ぎに出ている父親、早逝した母親で構成される一家族の、盆休みのほんの束の間の家族のやりとりが描かれている。それらは、主人公の少年に寄り添う語り手の淡々とした語り口で、登場人物の会話や心内語、巧みな構成と展開、行動描写や情景描写で描かれており、読み手は、抑えられた表現の中に、こみあげる思いを感じ取ることができる。表現を手掛かりに想像をふくらませてリライトする言語活動に適した教材と言える。また、会話部分には方言が用いられるものの、地の文は心内語であっても共通語が用いられていることから、話し言葉と書き言葉の違い、共通語と方言の果たす役割について学ぶことにも適した教材と言える。

指導に際しては、生徒の主体的な学習活動を促すとともに、言語活動を通して表現の仕方について自分の考えをもつことができるように配慮したい。また、リライトを楽しませることで、読書へ誘い、身に付けた知識・技能を活用して想像をふくらませて豊かに読む態度を身に付けさせるようにしたい。

《引用文献》1) 井上一郎『総合的な読みの力を育成する国語科の授業』2000年2月 明治図書 p.31

2 単元の目標

- (1) 主人公を替えてリライトするために必要な情報を読み取り，表現の仕方について自分の考えをもって，表現を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 描写の効果や登場人物の言動の意味を考え，文章の表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。(読むこと)
- (3) 描写や表記などの表現を工夫して，主人公を替えてリライトすることができる。(書くこと)
- (4) 話し言葉と書き言葉の違い，共通語と方言の果たす役割を理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元の言語活動

主人公を替えてリライトし，書いた作品を読み合う。(関連：言語活動例C(2)ア)

4 単元の評価規準 ()内は該当する指導事項等の記号

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
1 主人公を替えてリライトするためにリライトの仕方を知り，学習の見通しをもとようとしている。 2 文章の表現の仕方について自分の考えをもって，表現を工夫しようとしている。 3 学習を振り返り，身に付けた力やその力が活用できる場面について考えようとしている。	1 心情が相手に効果的に伝わるように，描写や表記などの表現の工夫をして，リライトしている。 (B(1)ウ)	1 描写の効果や登場人物の言動の意味を考え，内容の理解に役立てている。 (C(1)イ) 2 文章の表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 (C(1)ウ)	1 話し言葉と書き言葉の違い，共通語と方言の果たす役割について理解している。 (伝国イ(ア))

5 指導と評価の計画 (全6時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	1 リライトについて概略を知り，興味をもつ。 2 本単元で行うリライトの条件を確かめ，簡単なリライトに取り組み，学習の見通しをもつ。 3 学習課題「主人公を替えてリライトし，読み合うことで，小説を想像豊かに読む力や表現を工夫して書く力を付ける。」を確かめる。	○小説の映画化，漫画化なども，リライトであることに気付かせる。 ○様々なリライトがあることを理解させるとともに，学習の仕方について見通しをもたせる。 ○リライトをすることによって読書の楽しみが広がる可能性を示唆する。	関一1 主人公を替えてリライトするためにリライトの仕方を知り，学習の見通しをもとようとしている。 【取り組みの様子】 【ワークシートの記述】

二	2	<p>4 登場人物のことが分かる表現に気を付けて読み、どういう人物か考える。</p> <p>5 登場人物の人物像について、グループで話し合い、考えを深める。</p> <p>6 リライト作品の主人公にする人物を、理由を明らかにして決める。</p>	<p>○祖母を例にして、作品の表現を根拠に、どういう人物か想像する手順や方法を説明する。</p> <p>○人物像の根拠となった表現について尋ねたり答えたりさせながら考えさせる。</p> <p>○心情表現の仕方を手掛かりに、主人公にする人物を決めさせる。</p>	<p>読－1 描写の効果や登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に役立てている。 【ワークシートの記述】</p>
	3	<p>7 主人公にする人物ごとにグループを編成し、2～3行程度の本文をリライトして交流し、リライトの仕方について確かめたり、登場人物の人物像や心情について考えを深めたりする。</p> <p>8 方言と共通語の果たす役割と効果を考える。</p> <p>9 リライトをする部分を決め、リライトに取り入れる表現の工夫を考える。</p>	<p>○主人公を替えてリライトする方法を確かめさせる。</p> <p>○「盆土産」の会話文に方言が使われているのに対し、地の文は共通語で書かれていることに気付かせ、方言が生活の言葉であることを理解させたり、語り手が共通語で語る効果について考えさせたりする。</p>	<p>言－1 話し言葉と書き言葉の違い、共通語と方言の果たす役割について理解している。 【ワークシートの記述】</p>
	4	<p>10 条件に応じてリライトする。 〔条件〕 Ⅰ 主人公にした人物の心情を書く Ⅱ 主人公にした人物の視点から出来事を書く Ⅲ 表現の仕方をまねる</p>	<p>○これまで学習に用いたワークシートを活用させる。</p> <p>○主人公にする人物やリライトする場面を決めることができない生徒については、父親を主人公にして、見送りに来た少年とのやり取りの場面をリライトするよう勧める。</p>	<p>関－2 文章の表現の仕方について自分の考えをもって、表現を工夫しようとしている。 【取り組みの様子】 【ワークシートの記述】 書－1 心情が相手に効果的に伝わるように、描写や表記などの表現の工夫をして、リライトしている。 【ワークシートの記述】</p>
	5	<p>11 書き上げたリライト作品について、なぜそのような想像をしたのか、なぜそのような表現の仕方をしたのか解説する文章を書く。</p> <p>12 グループで交流し、代表発表者を決める、</p>	<p>○なぜそのような内容や表現にしたのか根拠を明らかにすることについて念を押す。</p> <p>○よいところを付せんを書いて渡しながら意見を交流するように指示する。</p>	<p>読－2 文章の表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 【ワークシートの記述】</p>
三	6	<p>13 学級で作品を発表し合い、よいところやアドバイスを交流する。</p> <p>14 単元の学習を振り返り、身に付けた力やその力が活用できる場面について考える。</p>	<p>○評価表に、作品のよいところやアドバイスをメモするように指示する。</p> <p>○発表された作品について、よいところやアドバイスを発表させる。</p> <p>○単元の学習で使った学習資料を見直させ、身に付けた力を具体的に考えさせる。</p>	<p>読－2 文章の表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 【評価表の記述】 関－3 学習を振り返り、身に付けた力やその力が活用できる場面について考えようとしている。 【取り組みの様子】 【学習計画表の記述】</p>

6-1 1/6の指導計画

(1) 目標

リライトについて知り、学習課題を設定して学習の見通しをもとうとする。

(2) 展開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 リライトについて学習の手引き①を読んで概略を知り、興味をもつ。 2 本時の目標を知る。	学習の手引き①	○読書生活を振り返らせ、映画化や漫画化もリライトであることを知らせる。	
リライトについて知り、学習課題を設定して学習の見通しをもとう				
展開	3 簡単なリライトに取り組む。 4 本単元で行うリライトの条件を確かめ、原作とリライトした作品を読み比べる。 5 学習計画表で学習課題と学習の流れを確認する。 [学習課題] 「主人公を替えてリライトし、書いた作品を読み合うことで小説を想像豊かに読む力や表現を工夫して書く力を付けよう」	ワークシート① 学習の手引き② 学習計画表	○ワークシート①のリライトに取り組むことを通して、リライトについて理解させる。 ○一問ごとに解説を加え、リライトについて理解を確実にさせる。 ○手引き②にある条件と対応させて2つの文章を比べさせ、リライトの仕方を具体的に理解させる。 [条件] Ⅰ 主人公にした人物の心情を書く Ⅱ 主人公にした人物の視点から出来事を書く Ⅲ 表現の仕方をまねる ○学習計画表の「流れ」の空欄に「まとめる・伝え合う」と記入させて、リライトをして作品を交流することについて再確認させる。	関-1 主人公を替えてリライトするためにリライトの仕方を知り、学習の見通しをもとうとしている。 【取り組みの様子】 【ワークシートの記述】 リライト学習がイメージできない生徒には学習の手引き②に例示した文章とそのリライト作品を注記ごとに比べ読みさせながら読ませ、分からないところを質問させるなどして個別に指導する。
まとめ	6 本時の学習を振り返り、学習計画表の自己評価欄に記入する。 7 次時の目標や学習活動を確認して見通しをもつ。	学習計画表	○学習計画表の記入要領を説明する。 ○学習活動ができていたら□にチェックをさせ、自己評価の欄の「えびフライ」や「学んだこと」の欄も記入させる。 ○次時は、登場人物の人柄や背景、心情等を読み取っていくことを伝える。	

6-2 2/6の指導計画

(1) 目標

主人公にする登場人物を決めるために、登場人物のことが分かる表現に気を付けて「盆土産」を読み、描写の効果や登場人物の言動の意味を考え、人物像を思い描くことができる。

(2) 展開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 本時の目標を知る。	学習計画表	○リライト作品の主人公にする人物を決めるために登場人物について読み取ることを理解させる。	
主人公にする人物を決めるために、「盆土産」の登場人物について読み取る				
展開	<p>2 ワークシート②の教材文において、祖母について分かるところに線を引き、その部分から分かることをワークシート②の下の欄に書き出し、どういう人物であるか考えてワークシート③に書く。</p> <p>3 祖母と同様にして、少年、姉、父親登場人物のことが分かる表現にマーカーで線を引き、分かることを下の欄に書き出し、それぞれの人物について、どういう人物であるか考えてワークシート③に書く。</p> <p>4 ワークシート③に書いた人物像についてグループで紹介し合う。</p> <p>5 主人公にしたいと思う人物を、理由を明らかにして決める。</p>	<p>ワークシート② ワークシート③</p>	<p>○学級全体で取り組み、どのように人物像を読み取るか確かめさせる。</p> <p>○ワークシート②、③を配布し、線の引き方や書き込みの仕方を確かめさせる。</p> <p>□少年…赤色 □父親…黄色 □姉…青色 □祖母…緑色</p> <p>○分かることには、年齢、職業、家族構成といったプロフィール的な要素や、言動から分かる性格や価値観といった内面的な要素があることに気付かせる。</p> <p>○内面的要素については、根拠や理由について尋ねたり答えたりさせる。</p> <p>○主人公にする人物ごとに、グループ編成をすることを伝える。</p>	<p>読-1 主人公にする人物を決めるために、登場人物のことが分かる表現に気を付けて「盆土産」を読み、描写の効果や登場人物の言動の意味を考え、人物像を思い描いている。</p> <p>【ワークシートの記述】</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">いくつかの部分について実際に線を引いたり、書き込みをしたりする作業を一緒にを行い、個別に学習内容を理解させる。</p>
まとめ	<p>7 授業を振り返って自己評価をし、学習計画表に「学んだこと(学習のまとめや感想)」を記入する。</p> <p>8 次時の見通しをもつ。</p>	学習計画表	○学習計画表とワークシート②③を回収し、本時で生徒が学んだことや課題に思ったことを把握するとともに、グループ編成をする。	

6-3 3/6の指導計画

(1) 目標

- ・ 表現の仕方と効果を考えて、リライト作品の構想を練ることができる。
- ・ 話し言葉と書き言葉の違いや、共通語と方言の果たす役割について理解できる。

(2) 展開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 学習計画表を見て、本時の目標を確かめる。	学習計画表	○学習課題や本時の目標を確認させる。	
	表現の仕方と効果を考えて、リライト作品の構想を練ろう			
展開	2 本文の2～3行を選んで、実際にリライトする。 3 主人公にする人物が同じであるグループで、リライトしたものを紹介し合う。 4 作品の雰囲気を作り上げる要素の1つである方言と共通語の使い分けについて理解する。	ワークシート② ワークシート④	○リライトしやすい部分を例示して生徒に選ばせるなどして、生徒が迷わずにすむようにしておく。 ○リライトの条件に合っているかどうか確認させる。 ○特に、条件Ⅲの「表現の仕方をまねる」ことについてできているかどうか、確認させる。 ○方言が生活の言葉であることを理解させたり、語り手が共通語で語ることの効果について考えさせたりする。 [効果の例] ・日本語を知っていれば、誰もが読める小説にしている。 ・語り手は主人公の少年の視点から語ったり、少年に寄り添ったりしているが、決して少年自身ではないことを示している。	言-1 話し言葉と書き言葉の違いや、共通語と方言の果たす役割について理解している。 【ワークシートの記述】 「盆土産」を全て方言で書いたものと本文とを比較したり、逆に全て共通語で書いたものと本文とを比較したりして、共通語と方言の果たす役割について考えさせる。
	5 リライトする部分や、リライトに取り入れる表現の工夫をを考えて、リライト作品の構想を練る。	ワークシート⑤	○主人公にした人物の行動描写がある部分を中心に、リライトする部分を決めさせる。	
まとめ	7 授業を振り返って自己評価をし、学習計画表に「学んだこと(学習のまとめや感想)」を記入する。 8 次時の見通しをもつ。	学習計画表 ワークシート⑤	○「学んだこと」の欄には、方言と共通語について学んだことも書くように指示する。 ○次時は実際にリライトすることを確認する。	

6-4 4/6の指導計画

(1) 目標

- 文章の表現の仕方について自分の考えをもって、表現を工夫しようとする。
- 心情が相手に効果的に伝わるように、描写や表記などの表現の工夫をしてリライト作品を書くことができる。

(2) 展開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 本時の目標を知る。	学習計画表	○本時でリライト作品を仕上げ、次時でワークシート⑤を完成させ、グループで交流することを確認させる。	
<p>心情が効果的に伝わるように、描写や表記を工夫してリライトしよう</p>				
展開	<p>2 必要な情報を読み取りながら、表現の仕方について自分の考えをもって、表現を工夫してリライトする。</p> <p>[手順]</p> <p>1) 場面の時間、場所、登場人物、出来事、表現の工夫を確認する。</p> <p>2) リライトの条件に従ってリライトする。</p> <p>[リライトの条件]</p> <p>I 主人公にした人物の心情を書く。</p> <p>II 主人公のした人物の視点から出来事を書く。</p> <p>III 表現の仕方をまねる。</p> <p>3) リライトした作品を読み返して推敲する。</p> <p>4) グループで取り組み状況を交流する。</p>	<p>ワークシート⑤</p> <p>ワークシート⑤記入例①</p> <p>ワークシート⑤記入例②</p> <p>ワークシート⑤記入例③</p>	<p>○「盆土産」の表現を根拠にして想像力を働かせて楽しんでリライトすることについて念を押す。</p> <p>○これまで使用したワークシートを参照させ、条件を確かめさせる。</p> <p>○リライトするときの条件に合っているか、確認をさせながらリライトさせる。</p> <p>○リライトするときの条件に合っているか、確認をさせながら推敲させる。</p> <p>○リライトした作品のよいところを自分の表現の参考にさせる。</p>	<p>関-2 文章の表現の仕方について自分の考えをもって、表現を工夫しようとしている。</p> <p>【取り組みの様子】</p> <p>【ワークシートの記述】</p> <p>書-1 心情が相手に効果的に伝わるように、描写や表記などの表現の工夫をしてリライト作品を書いている。</p> <p>【ワークシートの記述】</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">記入例を渡して比べ読みをさせ、表現の工夫について、その根拠や効果がどのようなものか具体的につかませる。</p>
まとめ	<p>3 授業を振り返って自己評価をし、学習計画表に「学んだこと(学習のまとめや感想)」を記入する。</p> <p>4 次時の見通しをもつ</p>	学習計画表	○次時はグループで作品を読み合うことを知らせ、学習の見通しをもたせる。	

6-5 5/6の指導計画

(1) 目標

自分の書いたリライト作品の表現の仕方について、根拠を明確にして解説することができる。

(2) 展開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 本時の目標を知る。	学習計画表	○グループのメンバーに自分の書いた作品を説明する文章を書くことを確認する。	
自分の書いたリライト作品の表現の仕方について根拠を明確にして解説しよう				
展開	2 リライトした作品について解説する文章を書く。 〔手順〕 1) 内容を想像したところについてその根拠と理由を書く。 2) 表現の工夫をしたところについてその理由と効果を書く。	ワークシート⑤ ワークシート⑤記入例① ワークシート⑤記入例② ワークシート⑤記入例③	○リライト作品を書く上で工夫したところをPRするように書かせる。 ○「盆土産」の表現を根拠に想像力を働かせていることを、具体的に説明させる。 ○表現の工夫とその効果については学習の手引きを利用させながら解説の文章を書かせる。	読-2 リライト作品の表現の仕方について、根拠を明確にして解説している。 【ワークシートの記述】 記入例を渡して比べ読みをさせ、表現の工夫について、その根拠や効果がどのようなものか具体的につかませる。
開	3 グループで作品を交流し合い、考えを深める。 〔手順〕 1) 作品を読み合い、よいところを評価し合い、アドバイスをし合う。 2) 学級で発表する作品発表者をグループから1名決める。 3) 作品紹介者を1名決める。	付せん 振り返りシート	○作品のよいところやアドバイスを、付せんに書いて作品に張り付けさせる。 ○もらった付せんは振り返りシートに整理させる。 ○付せんを整理して、自分の作品について想像した内容や表現の仕方が適切であったか考えを深めさせる。 ○紹介したい理由を明らかにさせる。	
まとめ	4 授業を振り返って自己評価をし、学習計画表に「学んだこと(学習のまとめや感想)」を記入する。 5 次時の見通しをもつ	学習計画表	○次時は学級で作品を発表し合うことを知らせ、学習の見通しをもたせる。	

